

プラハ音楽院留学生の近況



【日本人留学生コンサート終演後ランガー教授と共に】

【練習室からブルタバ川とプラハ城を望む】

藤田真木(セミナー15回生：留学2017年9月～)東京都出身 ピアノ部門

2017年9月からプラハ音楽院に留学し、2年目を迎えました。学ぶことへの情熱だけを胸に右も左も分からずこの地に着き、そこからの一年は発見と充実の日々でした。歴史あるプラハ音楽院は、交通アクセスの良い中心街にあり、ブルタバ川沿いの大変眺めのいい場所に位置します。日本の大学に比べ、規模は小さいですがそのアットホームな校風を私は気に入っています。教授陣も少数精鋭で、チェコを代表するピアニストから現在のチェコ音楽界を牽引する若手ピアニストまで、教授として、ピアニストとして活躍する面々が顔を並べています。もし留学までに準備の余裕があるのなら、2週間ぐらいプラハに滞在し、教授のレッスンを受けながら留学生生活をイメージするのいいと思います。その際には、他の国への旅もおすすめします。チェコはヨーロッパの心臓と言われます。欧州の中心に位置し複数の国と隣接しているので、飛行機だけでなく、バスや電車に数時間揺られればお隣の国に行けます。陸続きのヨーロッパと言え各々の文化、経済、国民性があり、国によって生活は大きく異なることを肌で感じるいい機会だと思っています。

私がプラハ音楽院に入学を決意した決め手のひとつに学校のシステムが挙げられます。在籍する外国人コースは、進級や卒業とは関係なく自分のペースで学べます(次年度勉強を続ける際にはテストはあります)。レッスン数も自分で選ぶことができるので、滞在予定期間や予算によって教授と相談しながらカリキュラムを組むことができます。実技のほかに、チェコ語や和声等も履修できます。一般的には、週一回90分のレッスンとチェコ語を組んでいる人が多いです。所用で休む際は事前に教授に伝えれば振替レッスンをしてもらえます。本科の学生と履修システムは異なりますが、学校の利用については同様です。ピアノ練習室の使用やセミナーと呼ばれるホールでの弾きあい、列館でのコンサート出演等です。練習室は平日朝7時～21時まで、週末は半日閉まっていますが、祝日や長期休暇中は閉まってしまうので、家のピアノと学校とを併用している人が多いです。私の場合は、当初は家でも練習していましたが、学校で練習するスタイルに切り替えました。限られた時間の練習や、練習室の待ち時間が気にならない質だったのと、色々なピアノを弾くことが楽しくもありました。コンサート、オペラ、バレエが毎日どこかで上演され、国際的な音楽祭も開催されるプラハは、音楽を学ぶ学生にとって刺激ある生活を送れる場所だと思っています。チケットも毎日通える値段です。また、日本人コミュニティーもあり、年に2回の日本人留学生コンサートではソロやアンサンブルを演奏する機会があります。演奏を通じて友情も深まりますし、毎回多くの日本人の方々が聴きにきてくださるので、勉強の励みになります。2年目は、毎日の積み重ねで、小さな目標をひとつずつクリアしていきたいと思っています。今、プラハ音楽院留学に興味をお持ちの方が、これから充実した留学生活を送られることを願います。



【ドボルザーク音楽祭】



【日本人留学生コンサート ソロ】



【ヴァイオリンとドボルザークを演奏】